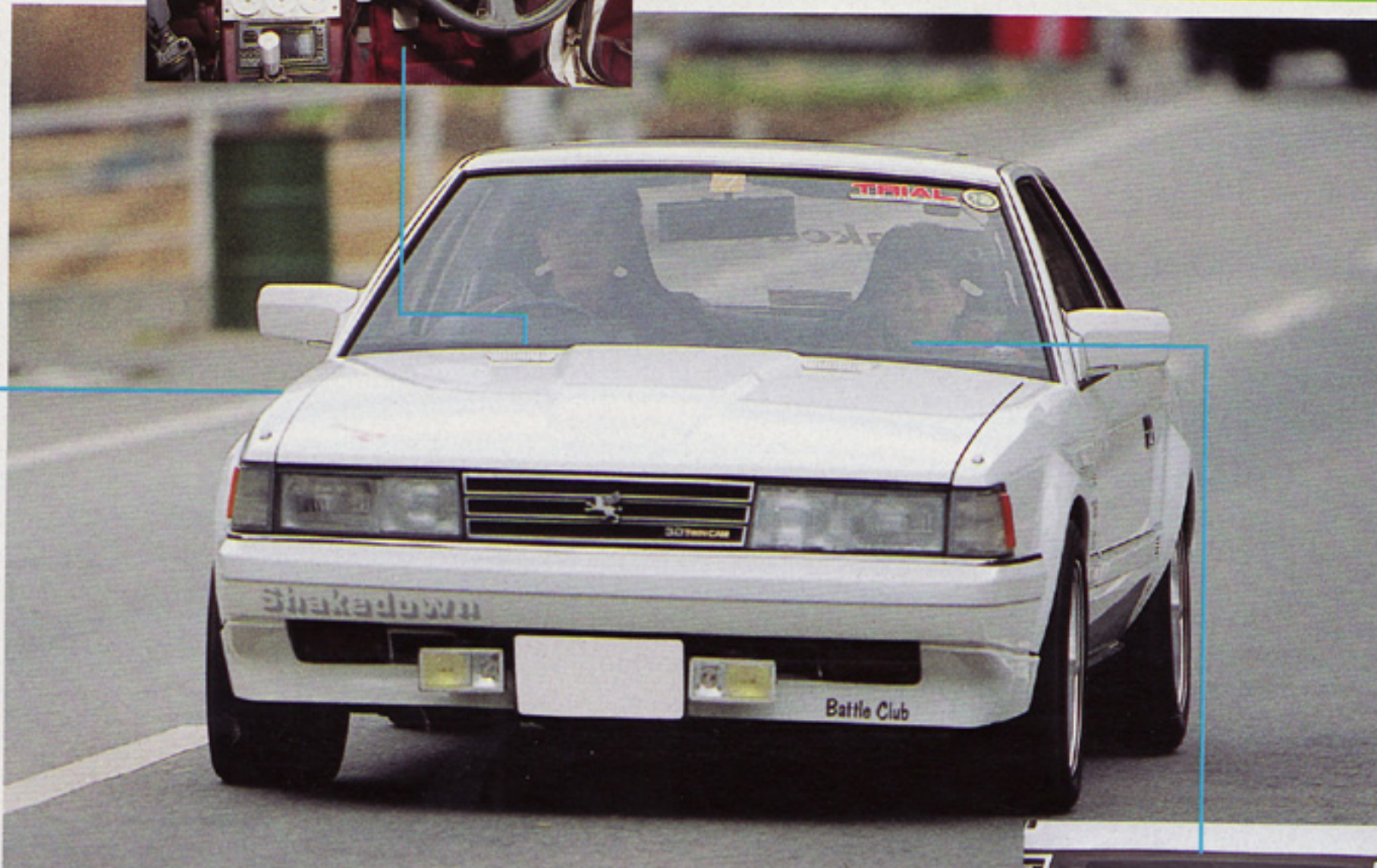


鉄板引き出しのメーターパネルには油圧計、油温計、水温計が取り付けられている。さらに、GPS+TVモニターも最新チューンUP



ソアラ2.8GT (MZ12) の場合

by トライアル



5Mの2.8をベースに、IN 2.5のヘッド、EX2.6の4度のカムを組み、フリッツ製の強化バルブスプリングをセット。もちろんクランクのバランス取りやボルトの股付き修正は欠かせない。総重は550cc X 6本のメインインジェクターをFICONとGCCC IIで制御する。



グローブボックスにブースト計、排気温度計やEVCなどのコントロールユニット部をセット。

排気量に見合ったタービンを、全域でパワーを絞り出す!!

5M-Gエンジンと言えど、2.8とはタテじゃない。特に、ターボは排気量がモノを言う。排気量が多ければ多いほど、タービンの選択肢が増えてくる。その上、タービンの種類が当時の何倍にもなった現在では、好みに合ったチューニングが可能だ。

まずは、エンジン本体のポテンシャルアップ。5M-Gはもともとノンターボなだけに、ピストンの強度が低いのでターボ用に作られたピストンを使ってやる。で、現代のハイパワー車と渡り合うため

にはボアアップの2.9とがベスト。さらに6M-G用のクランクを組んで、ストロークアップしてやることも可能だ。

このソアラはカールシュミット製ピストンにノーマルクランクを使った2.9とだが、現代のビッグタービンであるKKKのMOJを装着している。以前装着していた1HのC7より、低回転からスムーズで乗りやすくなっているのが特徴だ。

今の新鮮な空気を吹きかけて、5Mパワーを蘇らせろ!!

エアフロは押し込み式(インタークーラーとスロットルの間に設置)。



タービンはKKKのMOJ。コイツはK27.2より大きなタービンだ。オリジナルのステンレスタコ足にセットし、ウエイストゲートはフリッツのEタイプを使う。ブースト1.2kg/cm²時に400psを発生。

